

【1】高島プログラムに基づく具体的な取組

（1）共同授業研究システムについて ～「マキノ中学校区小中一貫教育の日」の取組～

「主体的・協働的に学び、未来を切り拓く人の育成」を中学校区の教育目標に、年2回の「マキノ中学校区小中一貫教育の日」を設定し、小学校及び中学校で授業及び授業研究会を持ち、教職員全員が参加できる体制をとった。①国語・算数・数学部会、②外国語活動・外国語・英語部会、③学びあう集団づくり部会、④学びに向かう力育成部会の4部会に分かれ、それぞれの研究テーマのもと研究を進めた。事前の指導案検討会・事後の研究協



議会とも各部会の研究テーマに沿って協議し、授業改善や学力向上に向けて研修を深めることができた。ICT機器やホワイトボードなどの活用、思考ツールの工夫、ペアやグループなど学習スタイルの工夫を進める一方、学びを深められる集団としての力の育成を目指していかなければならない。マキノ中学校区学習スタイル定着に関するアンケートによると、「学習に向かう姿勢・準備」や「ノートに日付・めあて（課題）・まとめ・振り返りを書く」の項目で定着度が伸びていることから共同授業研究により、授業スタイルの共通実践や授業改善が進められ学びの質が高まってきていると考えられる。



（2）小学校の教科担任制について

本年度は、マキノ東小学校6年生、マキノ南小学校5年生で算数科の教科担任制を実施した。両校とも、校内の教務主任が教科担任として授業を進めた。学級担任とのTT授業を行うことでよりきめ細かな指導・支援ができた。市小中一貫教育アンケートにおいても、「算数がとても好き・好き」が97%、算数の授業で複数の先生に教えてもらうことについて「とても良いと思う・良いと思う」が92%で、教科担任制やTTによる授業が児童生徒の学習意欲を高め、理解を深めることにつながっていると見える。しかし、「算数・数学の勉強が好き」と思っている児童生徒は全体の半分程度で、さらに魅力ある授業づくりや教材教具の工夫など研究を深めたい。

（3）学習環境づくりに向けた取組について

2015年度に作成した「マキノ中学校区版学習スタイル」を基本として、指導・定着の徹底を目指して取り組んだ。達成率90%の目標に対して小学校では、「学習に必要な物だけ机に出す」「日付・めあて・まとめを書く」、中学校では小学校の項目に加えて、「席について待つ」「落ち着いて授業に臨む」「話を聞き取る」の項目で目標値を上回ることができた。一方、小学校では、「正しい姿勢で学習する・書く」、中学校では「返事をして、立って発表する」「考えの根拠を示して話す」「板書を写すだけでなく大切だと思うことを付け加えて書く」の項目は、定着率が低かった。これまで、児童生徒と教職員のアンケート結果に隔たりの大きい項目が見られたが、今年度はその差が縮まっており、指導の成果が児童生徒の意識や行動の中に根付きつつあると思われる。今後も指導の徹底をしつつ、学習集団としての質を高められる内容へと進化させることも考えなければならないだろう。



【2】平成30年度マキノ中学校区の「NEXT ONE」 特色ある取組の成果と課題

① こども園との共同研究

健康推進委員会による4, 5歳児への歯科指導の継続実施や小・中学校教員の園参観や交流を行った。園研究会にも参加し、15歳の姿をイメージしつつ、連続した健やかな成長のためにどのような指導や支援、環境、活動や授業が有効かなどについて考えることができた。今後は、共通カリキュラム（アプローチ・スタートカリキュラム）の作成をともに進めていきたい。



②小・小（3・4・5・6年生）授業交流

本中学校区内の3小学校は、いずれも単級の小規模学校である。若い先生も多く、担当と同じ学年の授業を参観したり、教材研究を共にしたりする機会が少ない。そこで夏休み中の第2回全員研修会において、「学年別パワーアップ作戦会議」を実施し、学力向上と授業改善を目指した取組について話し合った。つまずきの見られる単元や定着しにくい内容を取り上げ、授業公開や情報交流を行った。各校への移動に時間がかかることや実践後に話し合う時間が十分とれないこと、負担感が大きいなど課題は多かったが、「大変勉強になった」



「参観したことがすぐに授業で活かせた」といった感想もあった。日々の授業実践に役立つ授業交流や研究が今後も実施されることを願いたい。

③小・中交流

中学校の体験入学と小学校合同陸上練習を同じ日に設定して行った。陸上練習では、中学3年生がそれぞれの種目に分かれて競技のポイントを説明して見本を見せたり一緒に走ったりして分かりやすく指導していた。実施後のアンケートでは、「中学生は教え方が上手。自分が教える側になったらあんなふうになりたい。（小学生）」「小学生の指導で、自分も伸ばされたと感じた。（中学生）」など小学生にとっても中学生にとっても良い体験となったといえる。中学校入学への不安を取り除き、進学に対する期待をもつことのできるこれらの交流は、市の成果指標アンケート結果においても中学1年生で91.7%、教職員の100%が肯定的にとらえており今後も継続が望まれる。



「参観したことがすぐに授業で活かせた」といった感想もあった。日々の授業実践に役立つ授業交流や研究が今後も実施されることを願いたい。

④夢カードの活用とキャリア教育

今年度から小学校1年生の「夢ファイル」に卒園時の思い出アルバムの1ページが加わり、これまで以上に自分の夢や目標への思いを成長とともに強く意識しながら記録していけるようになった。しかし、活用開始から数年が経過したことや指導者の交代、児童生徒の実態の変容などの点から、より有効な活用に向けて改善を図っていかねばならない時期である。

【3】次年度の構想

- グランドデザインの見直し
- 小中一貫教育の日・・・授業研究の日 年2回実施
- 全員研修会・・・部会・委員会による研究推進
前期・中期・後期の発達段階ごとの指導実践交流
- 小学校合同陸上練習・中学校体験入学
- こども園連携・・・研究会・研究大会参加、園参観、歯科指導
- 夢カードの活用とキャリア教育についての共通理解・共通実践
- 学習スタイル指導徹底・家庭学習の取組推進
- 地域連携強化・・・広報紙・教育カレンダーの発行

「あいさつ・返事・くつそろえ」家庭への啓発

